

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 31 年 1 月検出分;検体採取 平成 30 年 12 月、31 年 1 月)

平成 31 年 2 月 14 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザ（A 群溶血性レンサ球菌感染症の併発も含む）の検体 13 件（検体採取 12 月中旬～1 月下旬）について、検査を行ったところ、インフルエンザ A 型が 12 件検出され、残り 1 件については、インフルエンザウイルスは検出されませんでした。A 型が検出された 12 件のうち、6 件は AH3 型、6 件は A2009 型でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A 型別、B 系統別				備考
年	月日			A2009 型	AH3 型	Bvictoria	B山形	
	12月27日	西部	1	0	1	0	0	
	12月28日	中部	1	1	0	0	0	
	12月28日	西部	1	0	1	0	0	
2019	1月4日	中部	1	1	0	0	0	
	1月5日	西部	1	0	1	0	0	
	1月7日	西部	1	0	1	0	0	
	1月11日	中部	1	1	0	0	0	
	1月15日	西部	1	0	1	0	0	
	1月16日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	1	0	0	0	
	1月18日	中部	1	1	0	0	0	
	1月21日	西部	1	0	1	0	0	
	病原体定点PCR検査合計 (2018/12/27 - 現在)			12	6	6	0	0

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2 月 12 日作成）によると、今シーズンは、2018 年末まで A2009 型が多く、第 1 週からは AH3 型が多く報告されています。（図 1）

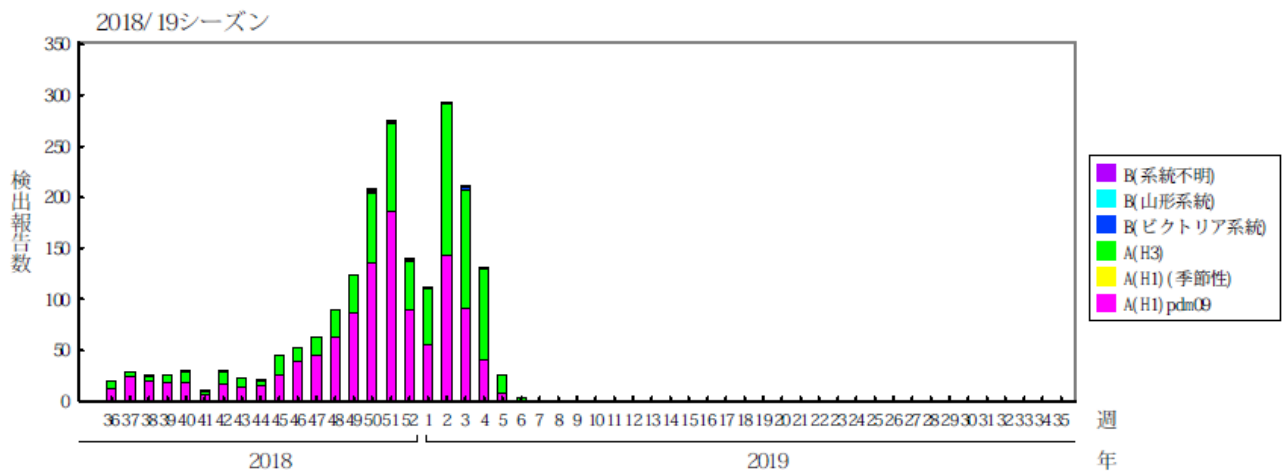


図 1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

2 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 4 件（検体採取 12 月上旬～下旬、1 月上旬・検体番号 180247～180250）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルスが検出されました。検出されたアデノウイルスについては、3 件が 54 型で、残り 1 件は型別不能でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2 月 12 日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 54 型は 2015 年以降最も多い報告数となっています。（図 1）

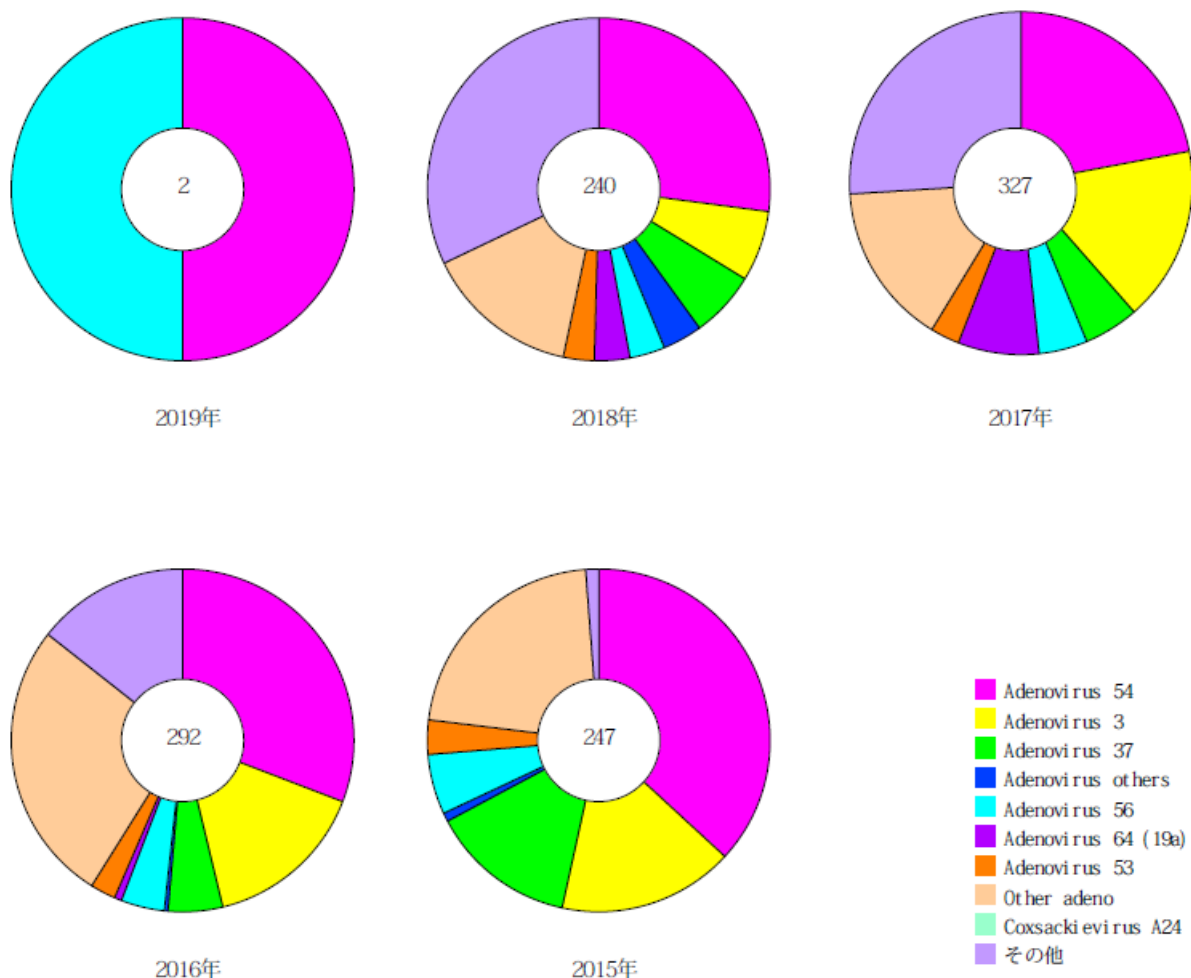


図 1 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015 年～2019 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（2 月 12 日までに報告された数）

3 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 10 件（検体採取 12 月上旬、中旬、1 月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス 2 件、アデノウイルス 40/41 型 2 件、A 群ロタウイルス 1 件でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A 群ロタウイルス	アデノウイルス 40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190007	12 月中旬	—	—	—	—	—	—
190008	12 月中旬	—	—	—	—	—	—
190009	12 月中旬	—	—	—	—	—	—
190010	12 月中旬	検出 (GII)					
190011	12 月中旬	検出 (GII)					
190012	12 月中旬	—	—	—	—	—	—
190013	12 月上旬	—	—	検出	—		
190014	12 月上旬	—	—	—	検出		
190015	1 月上旬	—	—	—	—	—	—
190016	12 月中旬	—	—	—	検出		
検出計		2 件	0 件	1 件	2 件	0 件	0 件

(—)：未検出

4 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 2 件（検体採取 12 月下旬～1 月上旬）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。その結果、1 件（番号 190001）からエンテロウイルス属のライノウイルス A のみが検出されました。国立感染症研究所の病原微生物検出情報（2018 年 6 月号）によると、ライノウイルスは主に咽頭ぬぐい液から検出されているが、無菌性髄膜炎発症との関連が不明確な症例が多いとあります。

5 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 12 月上旬）について検査を実施しましたが、RS ウイルスは検出されませんでした。

6 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌感染症の検体 1 件（検体採取 12 月下旬）について検査を行いましたところ、A 群溶血性レンサ球菌が分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 31 年 2 月検出分 ; 検体採取 平成 31 年 1 月、2 月)

平成 31 年 3 月 12 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザ（インフルエンザ様疾患も含む）の検体 11 件（検体採取 1 月下旬～2 月中旬）について、検査を行ったところ、インフルエンザ A 型が 8 件検出され、残り 3 件については、インフルエンザウイルスは検出されませんでした。A 型が検出された 8 件のうち、5 件は AH3 型、3 件は A2009 型でした。（詳細は表 1 のとおり）

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
2019	12月27日	西部	1	0	1	0	0	
	12月28日	中部	1	1	0	0	0	
	12月28日	西部	1	0	1	0	0	
	1月4日	中部	1	1	0	0	0	
	1月5日	西部	1	0	1	0	0	
	1月7日	西部	1	0	1	0	0	
	1月11日	中部	1	1	0	0	0	
	1月15日	西部	1	0	1	0	0	
	1月16日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	1	0	0	0	
	1月18日	中部	1	1	0	0	0	
	1月21日	西部	1	0	1	0	0	
	1月28日	東部	1	0	1	0	0	
	1月28日	西部	1	0	1	0	0	
	1月30日	西部	1	1	0	0	0	
	2月4日	西部	1	0	1	0	0	
	2月8日	中部	1	1	0	0	0	
	2月13日	東部	1	0	1	0	0	
	2月18日	中部	1	1	0	0	0	
	2月18日	西部	1	0	1	0	0	
病原体定点PCR検査合計 (2018/12/27 - 現在)			20	9	11	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3月7日作成）によると、今シーズンは、2018年末までA2009型が多く、第1週からはAH3型が多く報告されています。（図1）

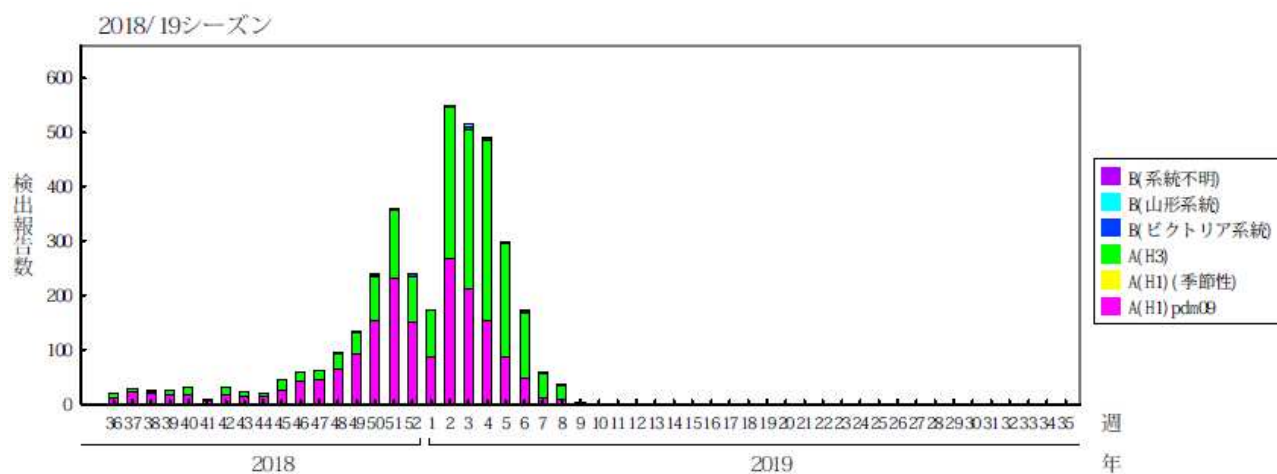


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体10件（検体採取1月上旬～下旬、2月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス7件、サポウイルス1件でした。（詳細は表1のとおり）

表1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190036	1月中旬	—	—	—	—	—	—
190041	2月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190042	1月上旬	—	—	—	—	—	—
190043	1月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190044	1月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190045	1月下旬	—	検出	—	—	—	—
190046	1月下旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190047	1月下旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190048	2月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190049	2月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
検出計		7件	1件	0件	0件	0件	0件

(—)：未検出

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体3件（検体採取1月中旬、下旬・検体番号190032、190034、190035）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルスが検出されました。検出されたアデノウイルスについては、すべて54型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3月7日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス54型は2015年から2018年まで最も多い報告数となっています。（図2）

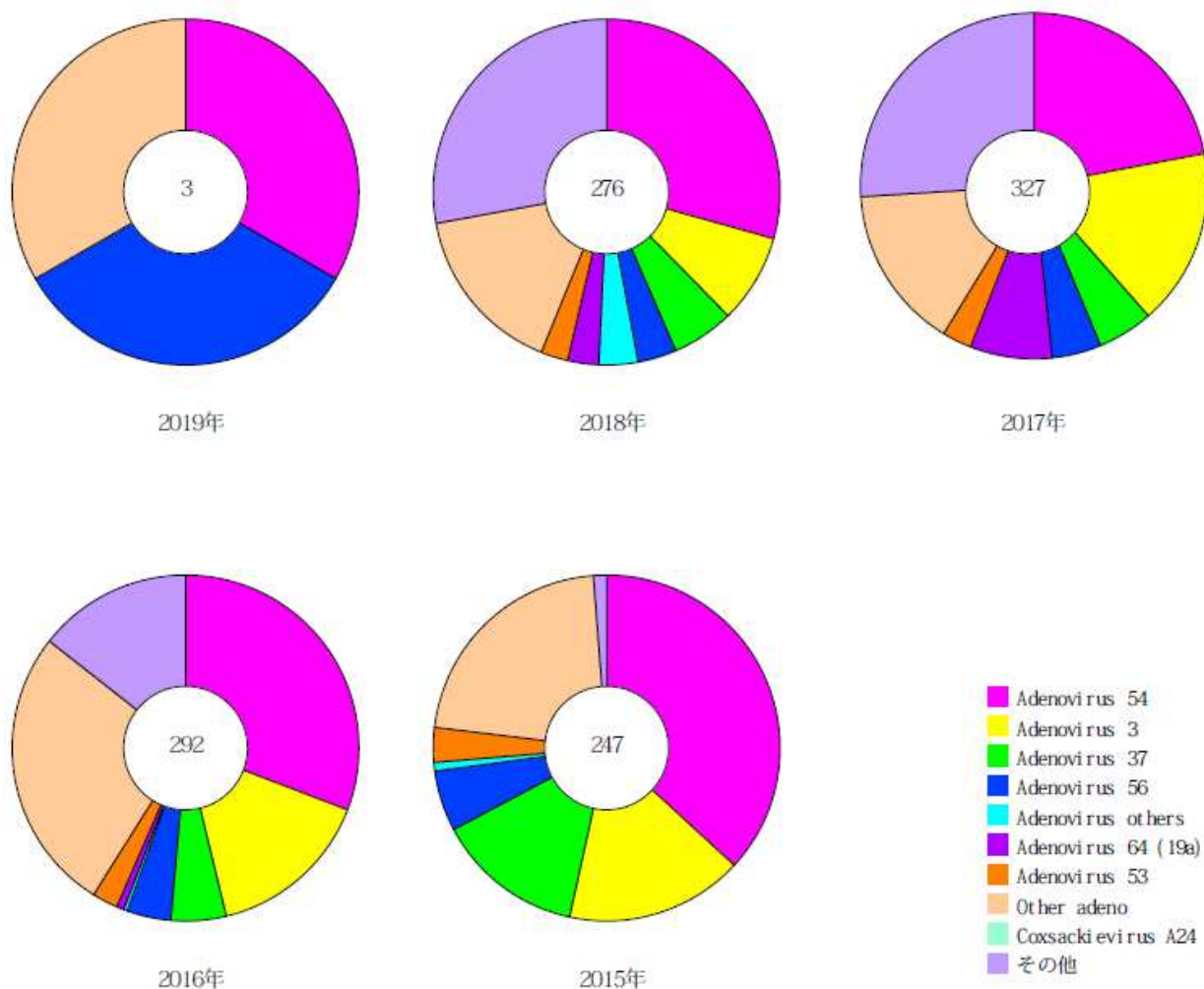


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015年～2019年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（3月7日までに報告された数）

4 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 1 件（検体採取 1 月下旬・検体番号 190051）について検査を実施したところ、アデノウイルスが検出されました。検出されたアデノウイルスについては、3 型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（3 月 7 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス 3 型は 2015 年以降最も多い報告数となっています。（図 3）



図 3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2015 年～2019 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（3 月 7 日までに報告された数）

5 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 1 月下旬）について検査を実施しましたが、RS ウイルスは検出されませんでした。

6 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌感染症の検体 2 件（検体採取 1 月中旬）について検査を実施しましたが、A 群溶血性レンサ球菌が分離されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 31 年 3 月検出分 ; 検体採取 平成 31 年 2 月、3 月)

平成 31 年 4 月 9 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体 4 件 (検体採取 2 月下旬～3 月中旬)について、検査を行ったところ、すべてインフルエンザ A 型が検出されました。これらのうち、3 件は AH3 型、1 件は A2009 型でした。(詳細は表 1 のとおり)

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
	12月27日	西部	1	0	1	0	0	
	12月28日	中部	1	1	0	0	0	
	12月28日	西部	1	0	1	0	0	
2019	1月4日	中部	1	1	0	0	0	
	1月5日	西部	1	0	1	0	0	
	1月7日	西部	1	0	1	0	0	
	1月11日	中部	1	1	0	0	0	
	1月15日	西部	1	0	1	0	0	
	1月16日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	1	0	0	0	
	1月18日	中部	1	1	0	0	0	
	1月21日	西部	1	0	1	0	0	
	1月28日	東部	1	0	1	0	0	
	1月28日	西部	1	0	1	0	0	
	1月30日	西部	1	1	0	0	0	
	2月4日	西部	1	0	1	0	0	
	2月8日	中部	1	1	0	0	0	
	2月13日	東部	1	0	1	0	0	
	2月18日	中部	1	1	0	0	0	
	2月18日	西部	1	0	1	0	0	
	2月22日	西部	1	0	1	0	0	
3月1日	西部	1	0	1	0	0		
3月5日	中部	1	1	0	0	0		
3月12日	西部	1	0	1	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2018/12/27 - 現在)			24	10	14	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（4月4日作成）によると、今シーズンは、2018年末までA2009型が多く、第1週からはAH3型が多く報告されています。（図1）

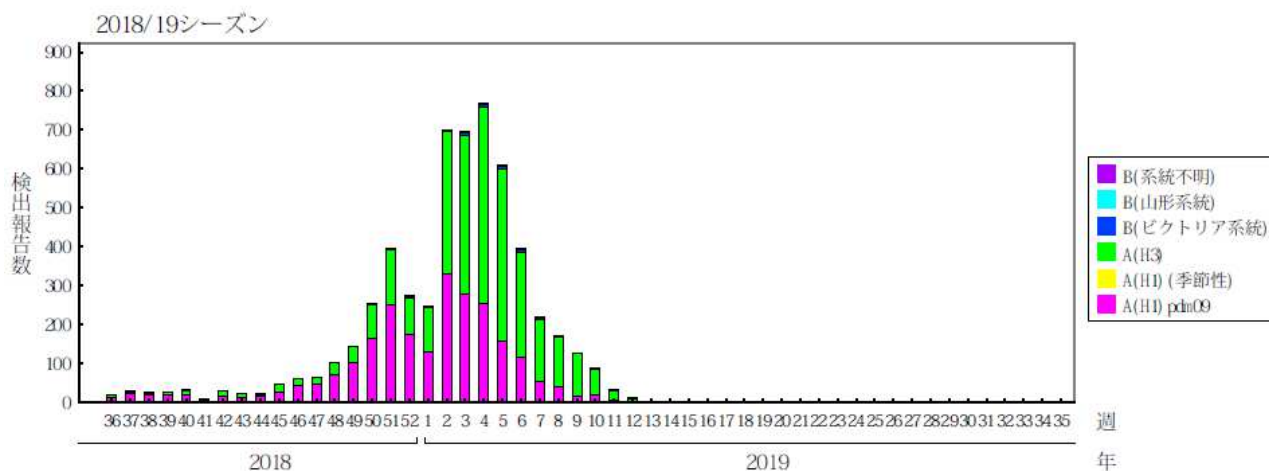


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体4件（検体採取2月上旬～中旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス3件、アストロウイルス1件でした。（詳細は表1のとおり）

表1 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190066	2月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190067	2月中旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
190068	2月中旬	—	—	—	—	検出	—
190069	2月上旬	検出(GII)	/	/	/	/	/
検出計		3件	0件	0件	0件	1件	0件

(—)：未検出

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体3件（検体採取2月上旬、中旬・検体番号190060、190063、190064）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルスが検出されました。検出されたアデノウイルスについては、2件が54型で、残り1件については型別不明でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（4月4日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス54型は2015年から2018年まで最も多く報告され、2019年でも現在第2位の報告数となっています。（図2）

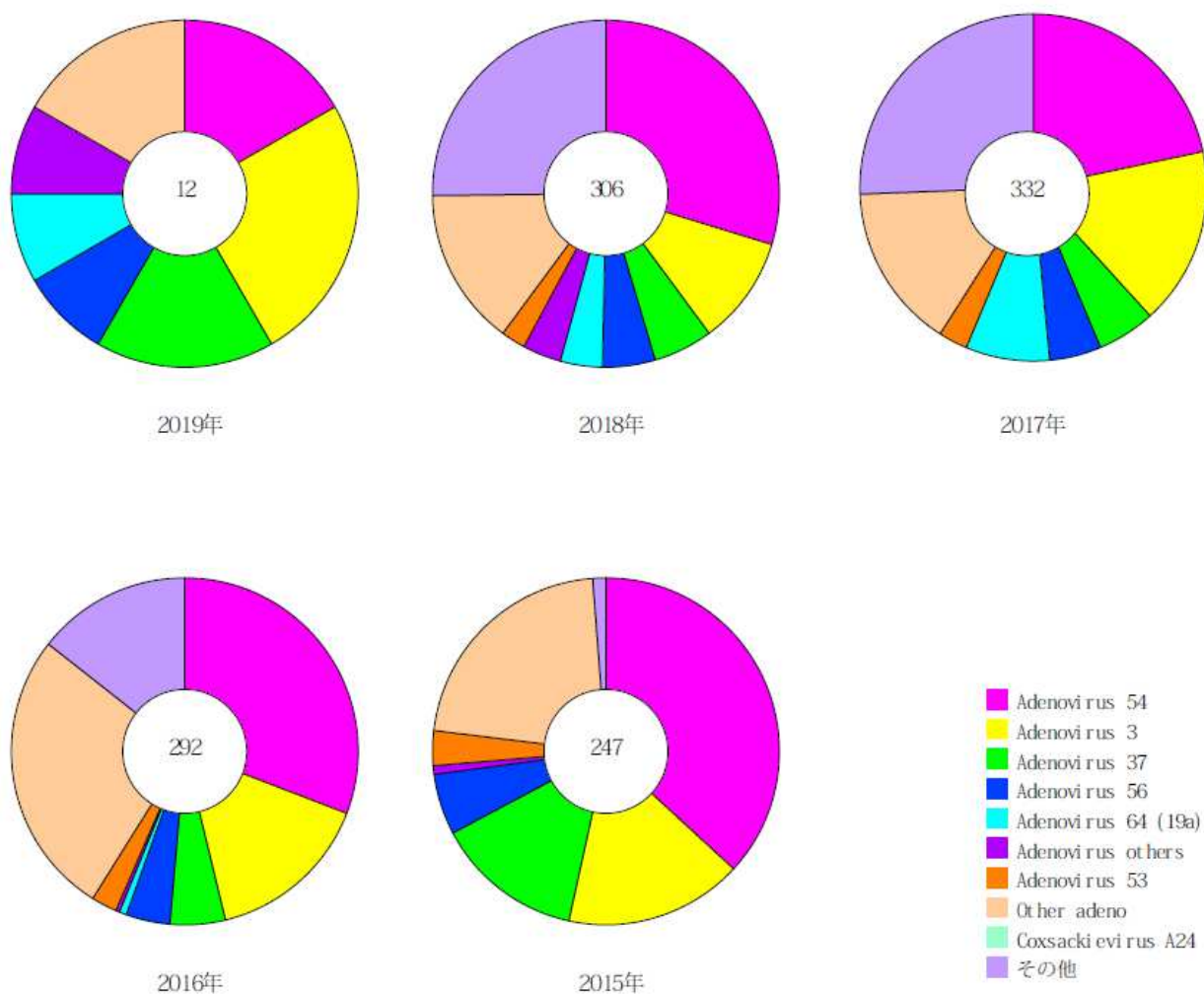


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015年～2019年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（4月4日までに報告された数）

4 急性出血性結膜炎

臨床診断名が急性出血性結膜炎の検体1件（検体採取3月上旬・検体番号190061）について検査を実施しましたが、エンテロウイルスは検出されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 31 年 4 月検出分 ; 検体採取 平成 31 年 2 月～4 月)

令和元年 5 月 14 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザの検体 5 件 (検体採取 3 月下旬～4 月中旬)について、検査を行ったところ、すべてインフルエンザ A 型が検出されました。これらは、すべて AH3 型でした。(詳細は表 1 のとおり)

表 1 今シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A2009型	AH3型	Bvictoria	B山形	
	12月27日	西部	1	0	1	0	0	
	12月28日	中部	1	1	0	0	0	
	12月28日	西部	1	0	1	0	0	
2019	1月4日	中部	1	1	0	0	0	
	1月5日	西部	1	0	1	0	0	
	1月7日	西部	1	0	1	0	0	
	1月11日	中部	1	1	0	0	0	
	1月15日	西部	1	0	1	0	0	
	1月16日	中部	1	1	0	0	0	
	1月16日	西部	1	1	0	0	0	
	1月18日	中部	1	1	0	0	0	
	1月21日	西部	1	0	1	0	0	
	1月28日	東部	1	0	1	0	0	
	1月28日	西部	1	0	1	0	0	
	1月30日	西部	1	1	0	0	0	
	2月4日	西部	1	0	1	0	0	
	2月8日	中部	1	1	0	0	0	
	2月13日	東部	1	0	1	0	0	
	2月18日	中部	1	1	0	0	0	
	2月18日	西部	1	0	1	0	0	
	2月22日	西部	1	0	1	0	0	
	3月1日	西部	1	0	1	0	0	
	3月5日	中部	1	1	0	0	0	
	3月12日	西部	1	0	1	0	0	
	3月22日	西部	1	0	1	0	0	
	4月1日	西部	1	0	1	0	0	
4月5日	中部	1	0	1	0	0		
4月11日	中部	1	0	1	0	0		
4月15日	西部	1	0	1	0	0		
病原体定点PCR検査合計 (2018/12/27 - 現在)			29	10	19	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（5月10日作成）によると、今シーズンは、2018年末までA2009型が多く、第1週からはAH3型が多く報告されています。（図1）

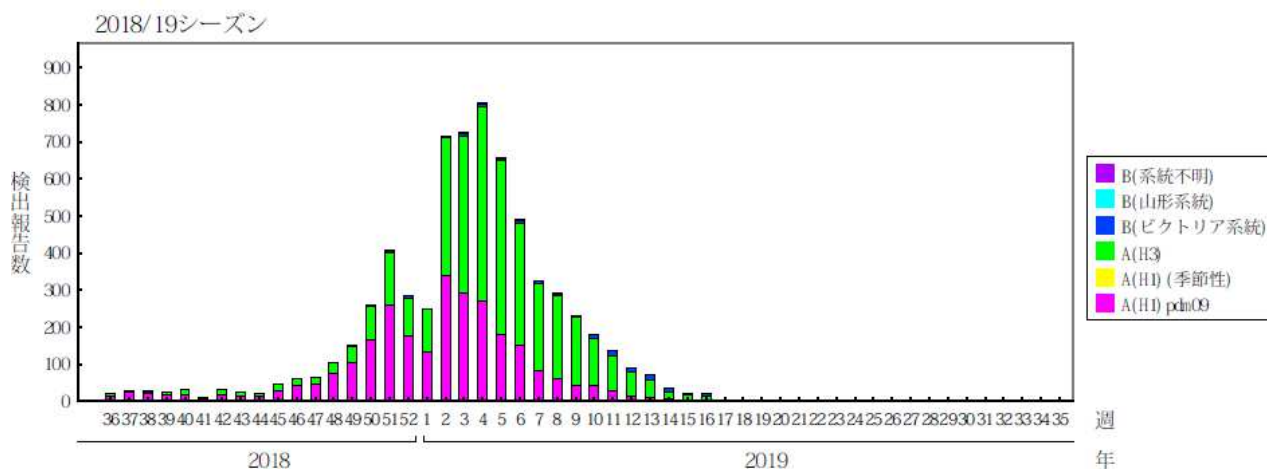


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体12件（検体採取2月上旬～4月上旬）について、検査を行いました。検出されたウイルスは、ノロウイルス10件でした。（詳細は表2のとおり）

表2 検査状況（感染性胃腸炎）

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス40/41	アストロウイルス	アイチウイルス
190074	3月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190075	4月上旬	—	—	—	—	—	—
190076	4月上旬	—	—	—	—	—	—
190077	3月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190078	3月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190079	3月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190083	3月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190084	3月上旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190085	3月上旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190094	3月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190097	2月上旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
190098	2月下旬	検出(GII)	—	—	—	—	—
検出計		10件	0件	0件	0件	0件	0件

(—)：未検出

3 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体2件（検体採取3月中旬、下旬・番号190095、190096）について検査を行いましたところ、すべてA群ロタウイルスが検出されました。

4 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体1件（検体採取3月下旬・検体番号190072）について検査を実施したところ、アデノウイルス54型が検出されました。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（5月10日作成）によると、全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについて、アデノウイルス54型は2015年から最も多く報告されています。（図2）

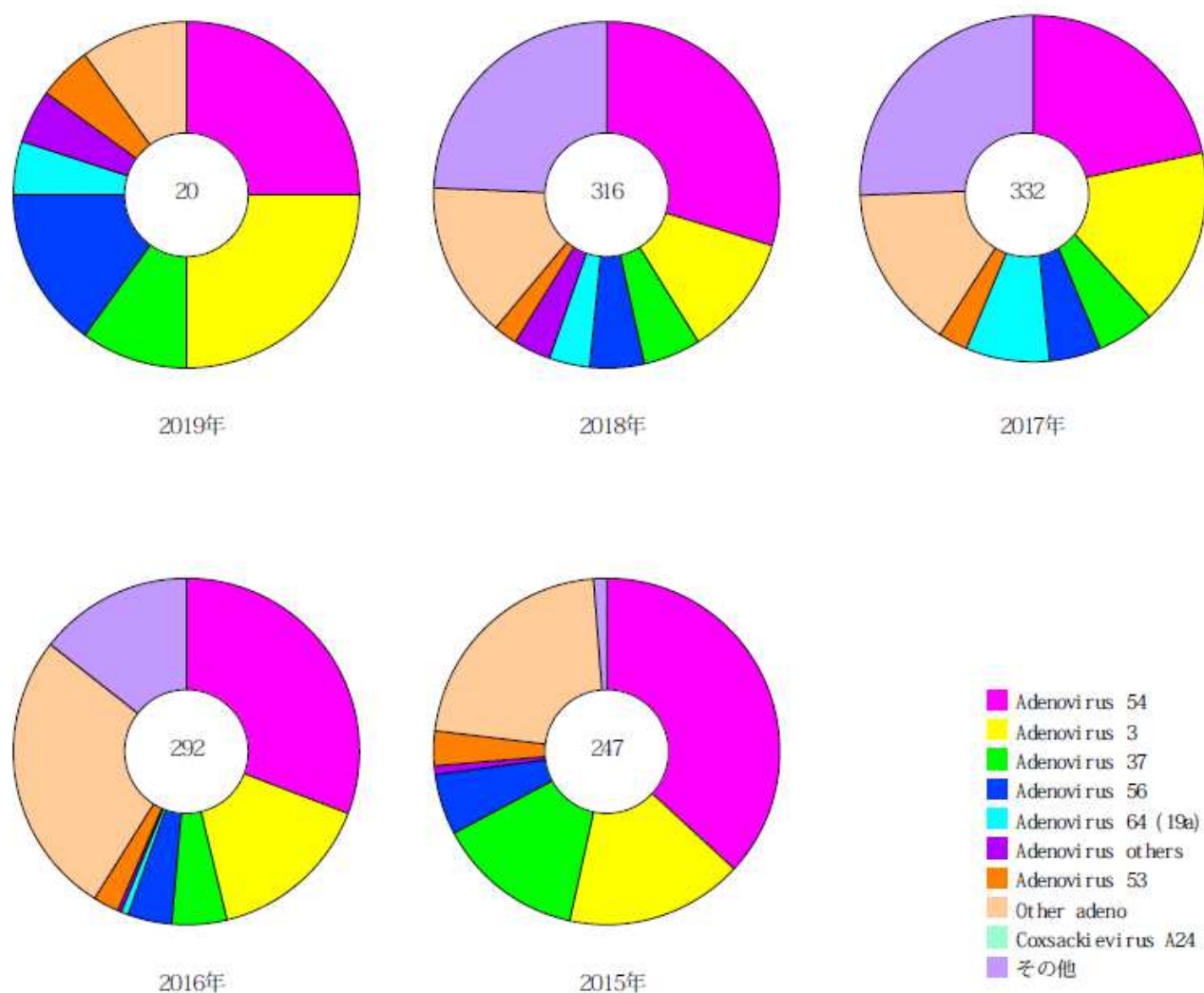


図2 流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルス（2015年～2019年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（5月10日までに報告された数）

4 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体 2 件（検体採取 2 月中旬、3 月下旬・検体番号 190088、190086）について検査を実施したところ、すべてアデノウイルスが検出されました。検出されたアデノウイルスについては、1 件が 1 型、1 件が 2 型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（5 月 10 日作成）によると、全国の咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルスについて、2015 年から、アデノウイルス 2 型は第 2 位、アデノウイルス 1 型は第 3 位の報告数となっています。（図 3）



図 3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2015 年～2019 年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（5 月 10 日までに報告された数）

5 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体3件（検体採取3月中旬、4月上旬・検体番号190073、190082、190089）について検査を実施したところ、エンテロウイルスは2件（検体番号190082、190089）から検出され、残り1件（検体番号190073）からは検出されませんでした。検出されたエンテロウイルスについては、すべてコクサッキーウイルスA16型でした。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報（5月10日作成）によると、全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについて、コクサッキーウイルスA16型は2015年から2018年まで第2位から第3位の報告数であり、2019年は最も多く報告されています。（図4）



図4 手足口病患者から分離・検出されたウイルス（2015年～2019年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（5月10日までに報告された数）

6 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 3 月上旬・検体番号 190087）について検査を実施したところ、RS ウイルス A 亜型が検出されました。

7 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌感染症の検体 2 件（検体採取 2 月下旬、3 月下旬）について検査を実施したところ、A 群溶血性レンサ球菌は 1 件（検体番号 190092）から分離され、残り 1 件からは分離されませんでした。分離された A 群溶血性レンサ球菌については、T 型別不能でした。

8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

発生届のあった検体 2 件について検査を実施したところ、2 件とも 4 つの遺伝子型（IMP 型、NDM 型、KPC 型、OXA-48 型）ではありませんでした。（詳細は表 3 のとおり）

表 3 検査状況（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

検体情報		検体受付日	総合判定			
発生届年月日	菌種		IMP 型	NDM 型	KPC 型	OXA-48 型
H31.2.15	<i>Serratia marcescens</i> (尿より分離)	H31.4.3	—	—	—	—
H31.3.3	<i>Enterobacter cloacae complex</i> (膿から分離)	H31.4.3	—	—	—	—

(—): 未検出